

# 2019 授業科目〈シラバス〉

Okinawa Prefectural University of Arts Syllabus

沖縄県立芸術大学  
美術工芸学部

## 授業科目〈シラバス〉について

この「2019授業科目〈シラバス〉」は、平成31年度に美術工芸学部で開講される専門教育科目について、各担当教員から提出された授業計画（シラバス）をまとめたものです。履修計画や年間の学習計画を立てる際に利用してください。

なお、総合教育科目、共通教育科目及び教職に関する科目は別冊となっています。

1. 実技の授業科目は、その多くが複数の実習（課題）で構成されています。この場合、授業科目の頁のあとに実習（課題）ごとのシラバスが記載されていることがあります。
2. 今年度開講する科目のみを掲載しています。
3. 集中講義科目については、単位数・学期欄に（集中）と表記されています。
4. 担当教員名欄の（名）は名誉教授を、（客）は客員教授を、（非）は非常勤講師を表します。
5. ■履修上の留意点には、履修の条件や注意事項のほかに、授業外の学習を含めて履修にあたり心掛けるべき点、学生への要望等が記載されています。
6. その他、本学の授業科目には科目名の末尾に番号等が付されているものがあります。これらは、科目開設の趣旨や性格、また分類上のルールがありますので、入学時に配布された履修案内等を確認してください。

# 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
絵画	必修主要	21110	絵画基礎	5	1	前	実技	1	
		21112	日本画Ⅰ	6	1	後	実技	7	
		21113	箔	2	1	後	演習	12	
		21213	日本画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	13	
		21214	日本画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	15	
		21121	油画Ⅰ	7	1	後	実技	21	
		21223	油画Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	25	
		21224	油画Ⅱ－Ⅱ	7	2	後	実技	29	
		21231	絵画特論Ⅰ	2	1	通年	講義	42	
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43	
		21291	古美術研究	4	2	後期	演習	44	
		必修専攻 専門関連	21132	彫刻(絵)	2	1	前	演習	45
			21133	デザイン(絵)	2	1	前	演習	46
			21209	工芸(絵)	2	2	前	演習	47
彫刻	必修主要	22110	デッサン	1	1	前	実技	48	
		22113	彫刻Ⅰ－Ⅰ	5	1	前	実技	49	
		22114	彫刻Ⅰ－Ⅱ	7	1	後	実技	53	
		22213	彫刻Ⅱ－Ⅰ	6	2	前	実技	56	
		22214	彫刻Ⅱ－Ⅱ	6	2	後	実技	59	
		22215	構成	1	2	後	実技	62	
		22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69	
	必修専攻 専門関連	22121	絵画(彫)	2	1	前	演習	72	
		22209	デザイン(彫)	2	2	前	演習	73	
		22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75	
選択専攻 専門関連	22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講		
芸術学	必修主要	23110	素描(芸)	2	1	前	演習	76	
		23114	実技研究(絵画)	3	1	後	実技	78	
		23115	実技研究(表現)	2	1	後	実技	81	
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84	
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85	
	必修専攻 専門関連	23151	絵画(芸)	2	1	前	演習	87	
		23152	彫刻(芸)	2	1	前	演習	88	
		23153	デザイン(芸)	2	1	前	演習	89	
		23154	工芸(芸)	2	1	前	演習	90	
	選択主要	23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100	
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102	
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103	
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104	
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105	
23436		原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講		
23437		原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106		
23438		美学特講	2	2～4	前	講義	107		
23439		芸術学特講	2	2～4	後	講義	108		
23440		東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109		
23228		日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110		
23441	西洋美術史特講	2	2～4	前	講義	111			
23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112			
選択専攻 専門関連	23330	絵画演習A	2	2～3	前	演習	281		
	23331	絵画演習B	2	2～3	後	演習	282		
	23261	彫刻演習A	2	2～3	前	演習	284		
	23262	彫刻演習B	2	2～3	後	演習	285		
	23334	デザイン演習A	2	2～3	前	演習	287		
	23335	デザイン演習B	2	2～3	後	演習	288		
	23336	工芸演習A	2	2～3	前	演習	290		
23337	工芸演習B	2	2～3	後	演習	291			

# 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
デザイン	必修主要	24112	デザインⅠ	3	1	前	実技	113	
		24113	木工芸基礎	2	1	後	演習	116	
		24114	立体造形(デ)	2	1	後	演習	117	
		24115	素描(デ)	1	1	後	実技	118	
		24116	色彩構成	2	1	後	演習	119	
		24117	空間構成	2	1	後	演習	120	
		24223	デザインⅡ-I	7	2	前	実技	121	
		24224	デザインⅡ-II	7	2	後	実技	127	
	必修専攻 専門関連	24121	絵画(デ)	2	1	前	演習	147	
		24123	彫刻(デ)	2	1	前	演習	148	
		24124	工芸(デ)	2	1	前	演習	149	
	選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1~4	前	講義	308	
		24133	日本建築史	2	1~4	後	講義	309	
		24153	クラフトデザイン計画	2	1~4	後	講義	310	
		24161	プロダクトデザイン論	2	1~4	後	講義	311	
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1~4	前	講義	312	
		24171	視覚伝達論A	2	1~4	前	演習	313	
		24172	視覚伝達論B	2	1~4	後	演習	314	
		24181	環境造形論	2	1~4	前	講義	315	
		24184	人間工学	2	1~4	後	講義	327	
		24251	図学	2	1~4	前	演習	316	
	工芸	必修主要	25112	描写	1	1	前	実技	150
			25113	色彩	1	1	前	実技	151
			25114	立体構成	1	1	前	実技	152
25101			工芸Ⅰ	7	1	後	実技	153	
25209			工芸Ⅱ	5	2	前	実技	158	
25261			立体造形(工)	1	2	前	実技	164	
25262			版画	1	2	前	実技	165	
25221			染Ⅰ	7	2	後	実技	167	
25231			織Ⅰ	7	2	後	実技	185	
25232			繊維科学	2	2	後	講義	206	
25222			染色化学	2	2	後	講義	207	
25211			陶芸Ⅰ	7	2	後	実技	209	
25212			窯業化学	2	2	後	講義	226	
25241			漆芸Ⅰ	7	2	後	実技	228	
25242		漆芸科学	2	2	後	講義	249		
必修専攻 専門関連		25102	絵画(工)	2	1	前	演習	251	
		25103	彫刻(工)	2	1	前	演習	252	
		25104	デザイン(工)	2	1	前	演習	253	
選択専攻 専門関連		25131	陶磁史	2	1~4	前	講義	318	
		25132	染織工芸史	2	1~4	前	講義	319	
	25151	生活造形論	2	1~4	後	講義	320		
	25152	装飾論	2	1~4	後	講義	321		
	25171	漆芸論	2	1~4	後	講義	322		
25177	色彩論	2	1~4	前	講義	326			

## 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成30年度以降入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
		24133	日本建築史	2	1～4	後	講義	309
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24163	図法及び製図A	2	1～4	前	演習	330
		24164	図法及び製図B	2	1～4	後	演習	331
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320		
25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321		
25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322		
25177	色彩論	2	1～4	前	講義	326		
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

## 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁		
絵 画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18		
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32		
		21331	絵画特論Ⅱ	2	2	通年	講義	43		
		21291	古美術研究	4	2	後	演習	44		
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	255		
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256		
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257		
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258		
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259		
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前	講義	260		
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261		
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262		
		21439	装飾概論A	2	1～4	後	講義	263		
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264		
		彫 刻	必修主要	22112	彫刻ⅠB	7	1	後	実技	—
				22212	彫刻Ⅱ	13	2	通年	実技	—
				22312	彫刻Ⅲ	13	3	通年	実技	63
				22231	彫刻特論Ⅰ	2	2	通年	講義	69
				22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
				22291	古美術研究	4	2	後	演習	71
専攻専門 関連	22207		デザインB	2	2	前	演習	—		
	22208		工芸B	2	3	前	演習	74		
選択専攻 専門関連	22132		美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75		
	22133		美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講		
	22421		西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265		
	22422		日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266		
	22423		クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後	講義	267		
	22424		プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268		
	22425		環境造形概論	2	1～4	前	講義	269		
	22426		陶磁史概説B	2	1～4	前	講義	270		
	22427		染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271		
	22428		生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272		
	22429		装飾概論B	2	1～4	後	講義	273		
	22430		漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274		
芸 術 学	必修主要	23112	実技研究	5	1	後	実技	77		
		23113	基礎演習	2	1	後	演習	84		
		23217	学外研究	4	2	後	演習	85		
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91		
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91		
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92		
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93		
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94		
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95		
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96		
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96		
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97		
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97		
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98		
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100		
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102		
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103		
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104		
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105		
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講		
23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106				
23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107				
23439	芸術学特講	2	2～4	後	講義	108				

# 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁		
芸術学	選択主要	23440	東洋美術史特講	2	2～4	前	講義	109		
		23228	日本美術史特講	2	2～4	後	講義	110		
		23441	西洋美術史特講	2	2～4	後	講義	111		
		23227	比較芸術学特講	2	2～4	後	講義	112		
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293		
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294		
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講		
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295		
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296		
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297		
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298		
		23142	現代芸術論 A	2	1～4	後	講義	299		
		23143	現代芸術論 B	2	1～4	前	講義	300		
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301		
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302		
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303		
		23148	西洋美術史 A	2	1～4	前	講義	304		
		23149	西洋美術史 B	2	1～4	後	講義	305		
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274		
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	277		
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286		
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289		
		23443	陶磁史概説 C	2	1～4	前	講義	275		
		23444	染織工芸史概説 C	2	1～4	前	講義	276		
		23445	生活造形概論 C	2	1～4	後	講義	277		
		23446	装飾概論 C	2	1～4	後	講義	278		
		23447	漆芸概論 C	2	1～4	後	講義	279		
		デザイン	必修主要	24341	デザインⅢ A	7	3	前	実技	133
				24342	デザインⅢ B	7	3	後	実技	139
				24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
				24391	学外研究	4	3	後	演習	146
			選択専攻 専門関連	24132	西洋建築史	2	1～4	前	講義	308
24133	日本建築史			2	1～4	後	講義	309		
24153	クラフトデザイン計画			2	1～4	後	講義	310		
24161	プロダクトデザイン論			2	1～4	後	講義	311		
24162	ビジュアルデザイン論			2	1～4	前	講義	312		
24171	視覚伝達論 A			2	1～4	前	演習	313		
24172	視覚伝達論 B			2	1～4	後	演習	314		
24181	環境造形論			2	1～4	後	講義	325		
24182	色彩論			2	1～4	前	講義	326		
24184	人間工学			2	1～4	後	講義	327		
24251	図学			2	1～4	前	演習	316		
24252	CG基礎			2	2～4	後	演習	317		
選択共通 専門関連	25131			陶磁史	2	1～4	前	講義	318	
	25132			染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
	25151			生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
	25152			装飾論	2	1～4	後	講義	321	
	25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322			

## 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 29 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁	
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173	
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190	
		25322	染織特別演習	2	3	後	演習	208	
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214	
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227	
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235	
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250	
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318	
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319	
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320	
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321	
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328	
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322	
		25172	絵画史概説	2	1～4	後	講義	323	
		25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講	
		25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324	
		25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325	
	25176	沖縄美術工芸史概説	2	1～2	後	講義	休講		
	全専攻対象 (一部専攻除く科目あり)	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
			22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
			22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
			23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
			23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
			23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
			23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
			23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
			23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
23141			書道史	2	1～4	前	講義	298	
23142			現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299	
23143			現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300	
23145			一般芸術学	2	1～4	前	講義	301	
23146			日本美術史	2	1～4	前	講義	302	
23147			東洋美術史	2	1～4	後	講義	303	
23148			西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304	
23149			西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305	
24132			西洋建築史	2	1～4	後	講義	308	
24133			日本建築史	2	1～4	後	講義	309	
24153			クラフトデザイン計画	2	1～4	前	講義	310	
24161			プロダクトデザイン論	2	1～4	前	演習	311	
24162			ビジュアルデザイン論	2	1～4	後	演習	312	
24171			視覚伝達論A	2	1～4	前	講義	313	
24172			視覚伝達論B	2	1～4	前	講義	314	
24181			環境造形論	2	1～4	後	講義	315	
24182			色彩論	2	1～4	前	演習	326	
24184			人間工学	2	2～4	後	演習	327	
24251			図学	4	1～4	通年	演習	316	
24252			CG基礎	2	1～4	後	演習	317	
25162			図法及び製図	2	2～4	後	演習	328	
自由科目	21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335		
	24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336		

# 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
絵画	必修主要	21311	日本画Ⅲ	14	3	通年	実技	18
		21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20
		21321	油画Ⅲ	14	3	通年	実技	32
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39
	選択専攻 専門関連	21431	西洋建築史概説A	2	1～4	前	講義	256
		21432	日本建築史概説A	2	1～4	後	講義	256
		21433	ビジュアルデザイン概論	2	1～4	前	講義	257
		21434	視覚伝達概論A	2	1～4	前	演習	258
		21435	視覚伝達概論B	2	1～4	後	演習	259
		21436	陶磁史概説A	2	1～4	前(集中)	講義	260
		21437	染織工芸史概説A	2	1～4	前	講義	261
		21438	生活造形概論A	2	1～4	後	講義	262
		21439	装飾概論A	2	1～4	後(集中)	講義	263
		21440	漆芸概論A	2	1～4	後	講義	264
彫刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68
		22331	彫刻特論Ⅱ	2	3	通年	講義	70
	選択専攻 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講
		22421	西洋建築史概説B	2	1～4	前	講義	265
		22422	日本建築史概説B	2	1～4	後	講義	266
		22423	クラフトデザイン計画概論	2	1～4	後(集中)	講義	267
		22424	プロダクトデザイン概論	2	1～4	後	講義	268
		22425	環境造形概論	2	1～4	前	講義	269
		22426	陶磁史概説B	2	1～4	前(集中)	講義	270
		22427	染織工芸史概説B	2	1～4	前	講義	271
		22428	生活造形概論B	2	1～4	後	講義	272
		22429	装飾概論B	2	1～4	後(集中)	講義	273
22430	漆芸概論B	2	1～4	後	講義	274		
芸術学	必修主要	23411	卒業論文	5	4	通年	演習	86
	選択主要	23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91
		23423	芸術学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	92
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95
		23427	東洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	96
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96
		23429	西洋美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	97
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97
		23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98
		23431	語学演習A(英語)	4	2～4	通年	演習	100
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102
		23433	語学演習C(仏語)	4	2～4	通年	演習	103
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105
		23436	原典研究B(漢文)	4	2～4	通年	演習	休講
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106
		23438	美学特講	2	2～4	通年	講義	107
		23439	芸術学特講	2	2～4	通年	講義	108
	23440	東洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	109	
	23228	日本美術史特講	2	2～4	通年	講義	110	
	23441	西洋美術史特講	2	2～4	通年	講義	111	
	23227	比較芸術学特講	2	2～4	通年	講義	112	
	選択専攻 専門関連	23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297

# 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧 (平成 28 年度入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁
芸術学	選択専攻 専門関連	23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	274
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286
		23323	工芸演習	4	2～3	通年	演習	289
		23443	陶磁史概説C	2	1～4	前	講義	275
		23444	染織工芸史概説C	2	1～4	前	講義	276
		23445	生活造形概論C	2	1～4	後	講義	277
		23446	装飾概論C	2	1～4	後(集中)	講義	278
		23447	漆芸概論C	2	1～4	後	講義	279
23442	芸術文化論演習	4	3～4	通年	演習	98		
デザイン	必修主要	24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
		24342	デザインⅢB	7	3	後	実技	139
		24431	デザインⅣ	15	4	通年	実技	144
		24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
		24391	学外研究	4	3	後	演習	146
	選択専攻 専門関連	24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327
		24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		選択共通 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義
25132	染織工芸史		2	1～4	前	講義	319	
25151	生活造形論		2	1～4	後	講義	320	
25152	装飾論		2	1～4	後	講義	321	
25171	漆芸論		2	1～4	後	講義	322	
工芸	必修主要	25433	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190
		25434	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202
		25222	染色化学	2	2	後	講義	207
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235
		25442	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249
		25342	漆芸特別演習	2	3	前	演習	250
	25391	古美術研究	4	3	後	演習	166	
	選択専攻 専門関連	25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
25172		絵画史概説	2	1～4	通年	講義	323	
25173	彫刻史概説	2	1～4	前	講義	休講		
25174	現代芸術概論A	2	1～4	後	講義	324		
25175	現代芸術概論B	2	1～4	前	講義	325		

## 平成 31 年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧（平成 28 年度入学生用）

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻対象 （一部専攻除く科目あり）	選択共通 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ（骨）	2	1～4	前	講義	75
		22133	美術解剖学Ⅱ（筋）	2	1～4	前	講義	休講
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294
		23135	彫刻史	2	1～4	前	講義	休講
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
		23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306
		24153	クラフトデザイン計画	2	1～4	後	講義	310
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315
		24182	色彩論	2	1～4	前	講義	326
24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327		
24251	図学	2	1～4	前	演習	316		
24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317		
25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328		
自由科目	デザイン	24203	絵画C	3	2～4	通年	演習	334
		24204	彫刻C	4	2～4	前	演習	334
		24205	工芸D	4	2～4	通年	演習	334
	彫刻	22203	絵画A	3	2～4	通年	演習	334
		22204	デザインB	3	1～4	通年	演習	334
		22205	工芸B	4	2～4	通年	演習	334
	工芸	25203	絵画D	3	2～4	通年	演習	334
		25204	彫刻D	4	2～4	前	演習	334
		25205	デザインD	3	1～4	通年	演習	334
	芸術学	23101	絵画B	3	2～4	通年	演習	334
		23102	彫刻B	4	2～4	前	演習	334
		23103	デザインC	3	1～4	通年	演習	334
		23104	工芸C	4	2～4	通年	演習	334
	絵画	21203	彫刻A	4	2～4	前	演習	334
		21204	デザインA	3	1～4	通年	演習	334
21205		工芸A	4	2～4	通年	演習	334	
自由科目		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

# 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象専攻	科目区分	科目コード	授業科目名	単位数	受講年次	学期	授業区分	頁	
絵画	必修主要	21411	日本画Ⅳ	15	4	通年	実技	20	
		21421	油画Ⅳ	15	4	通年	実技	39	
彫刻	必修主要	22311	彫刻Ⅲ	14	3	通年	実技	63	
		22411	彫刻Ⅳ	15	4	通年	実技	68	
芸術学	必修主要	23228	日本美術史特講	2	2～4	前	講義	111	
		23411	卒業論文	5	4	前年	演習	86	
		23421	美学演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	91	
		23422	美学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	91	
		23424	芸術学演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	93	
		23425	日本美術史演習Ⅰ	4	3～4	通年	演習	94	
		23426	日本美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	95	
		23428	東洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	96	
		23430	西洋美術史演習Ⅱ	4	3～4	通年	演習	97	
		23432	語学演習B(独語)	4	2～4	通年	演習	102	
		23434	語学演習D(伊語)	4	2～4	通年	演習	104	
		23435	原典研究A(古文書)	4	2～4	通年	演習	105	
		23437	原典研究C(ラテン語)	4	2～4	通年	演習	106	
		23438	美学特講	2	2～4	前	講義	107	
	選択 専門関連	23320	絵画演習	4	2～3	通年	演習	280	
		23321	彫刻演習	4	2～3	通年	演習	283	
		23322	デザイン演習	4	2～3	通年	演習	286	
	デザイン	必修主要	24331	デザイン特別演習	2	3	後	演習	145
			24341	デザインⅢA	7	3	前	実技	133
			24342	デザインⅢB	7	3	後	実技	139
24391			学外研究	4	3	後	演習	146	
24431			デザインⅣ	15	4	通年	実技	144	
工芸	必修主要	25321	染Ⅱ	14	3	通年	実技	173	
		25421	染Ⅲ	15	4	通年	実技	182	
		25331	織Ⅱ	14	3	通年	実技	190	
		25431	織Ⅲ	15	4	通年	実技	202	
		25232	繊維科学	2	2	後	講義	206	
		25242	漆芸科学	2	2	後	講義	249	
		25311	陶芸Ⅱ	14	3	通年	実技	214	
		25411	陶芸Ⅲ	15	4	通年	実技	223	
		25312	陶芸特別演習	2	3	通年	演習	227	
		25341	漆芸Ⅱ	14	3	通年	実技	235	
		25441	漆芸Ⅲ	15	4	通年	実技	246	
		25322	染織特別演習	2	3	前	演習	208	
		25391	古美術研究	4	3	後	演習	166	
全専攻共通	選択 専門関連	22132	美術解剖学Ⅰ(骨)	2	1～4	前	講義	75	
		22133	美術解剖学Ⅱ(筋)	2	1～4	前	講義	休講	
		22202	金属演習	2	2～4	後	演習	292	
		23125	芸術心理学	2	1～4	後	講義	293	
		23126	芸術学	2	1～4	前	講義	294	
		23136	デザイン史	2	1～4	前	講義	295	
		23137	工芸史	2	1～4	前	講義	296	
		23138	絵画史	2	1～4	後	講義	297	
		23141	書道史	2	1～4	前	講義	298	
		23142	現代芸術論A	2	1～4	後	講義	299	
		23143	現代芸術論B	2	1～4	前	講義	300	
		24131	建築史	4	1～4	通年	講義	306	
		24153	クラフトデザイン計画	2	2～4	後	講義	310	
		24161	プロダクトデザイン論	2	1～4	後	講義	311	
		24162	ビジュアルデザイン論	2	1～4	前	講義	312	
		24171	視覚伝達論A	2	1～4	前	演習	313	
		24172	視覚伝達論B	2	1～4	後	演習	314	
		24181	環境造形論	2	1～4	前	講義	315	
		24182	色彩論	2	1～4	後	講義	326	
		24184	人間工学	2	1～4	後	講義	327	

## 平成31年度 美術工芸学部開設授業科目表一覧(平成27年度以前入学生用)

対象 専攻	科目 区分	科目 コード	授業科目名	単位数	受講 年次	学期	授業 区分	頁
全専攻 共通	選択 専門関連	24251	図学	2	1～4	前	演習	316
		24252	CG基礎	2	2～4	後	演習	317
		25131	陶磁史	2	1～4	前	講義	318
		25132	染織工芸史	2	1～4	前	講義	319
		25151	生活造形論	2	1～4	後	講義	320
		25152	装飾論	2	1～4	後	講義	321
		25162	図法及び製図	4	1～4	通年	演習	328
		25171	漆芸論	2	1～4	後	講義	322
		23145	一般芸術学	2	1～4	後	講義	301
		23146	日本美術史	2	1～4	前	講義	302
		23147	東洋美術史	2	1～4	前	講義	303
		23148	西洋美術史A	2	1～4	前	講義	304
23149	西洋美術史B	2	1～4	後	講義	305		
自由科目		21201	絵画	3	2～4	通年	演習	333
		22201	彫刻	4	2～4	前	演習	333
		24201	デザイン	3	1～4	通年	演習	333
		25201	工芸	4	2～4	通年	演習	333
		21202	写真演習	2	1～4	後	演習	335
		24202	スクリーン印刷演習	2	2～4	後	演習	336

# 実務経験のある教員による授業科目（実践的教育を行う授業）

対象専攻等	区分	授業科目名	単位数	授業区分	教員名	職	担当形態	実務経験等	掲載頁		
学部	選択科目 共通専門 関連科目	ビジュアルデザイン概論 ビジュアルデザイン論	2	講義	笹原浩造	准教授	単独	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	257 312		
		視覚伝達概論A 視覚伝達論A（印刷）	2	演習	赤嶺雅	教授	単独	グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	258 313		
		視覚伝達概論B 視覚伝達論B（映像）	2	演習	仲本賢	教授	単独	映像作家	259 314		
		環境造形概論 環境造形論	2	講義	宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	269 315		
		日本美術史	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	302		
		西洋美術史B	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	305		
		CG基礎	2	演習	真喜志康一	非常勤講師	単独	デザイン事務所経営	317		
絵画専攻	必修科目 主要科目	日本画Ⅳ	15	実技	平山英樹	教授	複数	日本画家	20		
					香川亮	准教授		画家			
					関谷理	講師		日本画家			
		油画Ⅳ	15	実技	田中睦治	教授	複数	美術家	39～41		
					知花均	教授		版画家			
					高崎賀朗	准教授		画家			
彫刻専攻	必修科目 主要科目	彫刻Ⅳ	15	実技	波多野泉	教授	複数	彫刻家	68		
					砂川泰彦	教授		彫刻家			
					河原圭佑	講師		彫刻家			
					長尾恵那	講師		彫刻家			
		彫刻特論Ⅱ	2	講義	波多野泉	教授	オムニバス	彫刻家	70		
					砂川泰彦	教授		彫刻家			
					河原圭佑	講師		彫刻家			
芸術学専攻	選択科目 主要科目	芸術学演習Ⅰ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	92		
		芸術学演習Ⅱ	4	演習	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	93		
		日本美術史演習Ⅰ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	94		
		日本美術史演習Ⅱ	4	演習	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	95		
		芸術学特講	2	講義	土屋誠一	准教授	単独	美術批評家	108		
		日本美術史特講	2	講義	小林純子	教授	単独	公立博物館学芸員（1989～1994年）	110		
デザイン専攻	必修科目 主要科目	デザインⅢA	7	実技	笹原浩造	准教授	複数	アートディレクター、化粧品会社宣 伝部勤務（1986～2010年）	133 134		
					高田浩樹	准教授		単独		デザイン事務所主宰	133 135
					又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家	133 136		
					宮里武志	准教授	単独	設計事務所主宰、建築設計事務所等 勤務（1994～2002年）	133 137		
					座波嘉克	教授	複数	プロダクトデザイナー	133 138		
					(インターンシップ)	複数		インターンシップA・B	133		
					デザインⅢB	7	実技	又吉浩	准教授	単独	アニメーション作家
		高田浩樹	准教授	単独				デザイン事務所主宰	133 141		
		仲本賢	教授	複数				映像作家	139 142		
		又吉浩	准教授					映像作家			
		赤嶺雅	教授	複数				グラフィックデザイナー、民間企業 （情報通信機械器具製造業、印刷業） デザイン室勤務（1986～1992年）	139 143		
		(インターンシップ)	複数					インターンシップC・D		139	
		工芸専攻	必修科目 主要科目	染Ⅲ				15	実技	渡名喜はるみ	教授
					名護朝和	教授	染色家				
織Ⅲ	15			実技	真栄城興茂	教授	複数	染織家、織工房主宰	202 205		
					花城美弥子	准教授		染織家			
陶芸Ⅲ	15			実技	山田聡	教授	複数	陶芸家	223		
					島袋克史	講師		陶芸家			
漆芸Ⅲ	15			実技	糸数政次	教授	複数	漆芸家、県工芸振興センター勤務 （1990～2013年）	246～248		
					水上修	教授		漆芸家			
		當眞茂	准教授		漆芸家						

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25241	漆芸 I	7単位 後期	2	実技	糸数 政次 當眞 茂 非常勤講師

■テーマ 漆芸全般についての基礎知識と技法の習得及び琉球漆工史で歴史を学び頭脳も鍛える

#### ■授業概要

漆芸分野の基礎として主に漆素材、下地、漆芸全般についての基礎知識と技法の習得を目標とする。漆芸は、1工程に要する作業時間は比較的短いものの、工程数が多いため実習は並行して行われるので、そのリズムに慣れ各自で作業の予定を立てることも大切になる。手を動かす作業だけに流されることなく、頭脳(歴史・社会性・アイデア・表現・感性)も鍛えることを忘れないように常に考えながら作業を進めてほしい。

#### ■到達目標

- ・道具の仕立てで鉋、塗師屋刀などの刃物研ぎ、漆刷毛の仕立て方を学び、髹漆に使えるように仕立てることができる。
- ・漆精製では、生漆がどの様にして塗料としての漆液になるのかを学び、漆の特性を知ることができる。
- ・指物・挽物技術を学ぶことで木の特性、木地製作方法の知識を習得できる。
- ・琉球漆工史は、過去に培われた漆芸技術がどのように根付いたかを学び、琉球王国の歴史的な背景を理解することができる。

#### ■授業計画・方法

1. 漆芸 I カリキュラムの説明。 ・琉球漆工史 (1～15回・週1回)
2. 道具の仕立て：鉋の仕立て、鉋身の裏出し、鉋身の研ぎ、鉋台の調整
3. 塗師屋小刀の仕立て、研ぎ、下地ヘラ制作、漆刷毛仕立て
4. 木工指物：木材の種類と性質、指物技法について、課題作品の制作手順
5. 髹漆①：下地法について、木地固め ・漆精製：透スグロメ漆精製方法、ナヤシ・クロメ作業
6. 刻苧彫り、木地固め、刻苧埋め、引込み地付け ・黒スグロメ漆精製方法、乾燥状態の確認
7. 布貼り、布目揃え、布目擦り ・中国産漆の輸入情報、日本産漆の採取現状
8. 本堅地、蒔地、地付け1回目、蒔地1回目 ・琉球王国時代の漆器実地見学
9. 木工ロクロ：挽物用木材の種類について、挽物刃物の作り方 ・琉球漆器の木地構造の歴史
10. 同じ形を作るための定規の作り方、挽物の練習 ・琉球時代の漆器生産の目的
11. 椀木地の作り方、銘々皿の作成 ・空研ぎ、地付け2回目、粉固め、蒔地2回目
12. 切粉付け1回目、空研ぎ、切粉付け2回目
13. 水研ぎ、下地固め、錆付け1回目、空研ぎ ・建造物への塗装、首里城正殿への彩色
14. 錆付け2回目、水研ぎ、捨塗、化粧錆 ・復元漆塗装施設の見学
15. 水研ぎ、下塗り ・琉球王国時代の漆芸資料の図案、技術から学びとれるもの ・レポート提出  
定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・非常に多くの道具や材料を使うため、基本的な取り扱いを守ること。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点 (授業への参加状況 30%)、レポートや課題作品の提出 (70%)

□基準 各授業の技法や素材の扱いが円滑にできるか。技法や素材を思考と共に表現に結びつけているか。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□参考資料 (作品) 各授業内で、DVD 鑑賞、施設・美術館の見学、関係資料の配布

□参考文献 小松大秀/加藤寛『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 四柳嘉章『漆の文化史』室瀬和美『漆の文化』角川選書 松田権六『うるしの話』岩波文庫

**【実習名】** 道具の仕立て**【期間】** 10月1日(火)～11月27日(水)**【教室】** 首里崎山キャンパス工芸棟 漆芸実習室**【担当】** 糸数 政次、當眞 茂**【課題】** 塗師屋小刀や鉋の刃物研ぎ、漆刷毛やへらなどの道具の仕立てを行う。**【授業概要】(テーマ)** 道具の仕立てで手先を鍛える。

漆芸実習を始めるにあたり、必要な道具の仕立てを行い実習の準備とする。漆刷毛の仕立てにおいては漆芸の基礎的な作業が含まれており専門的な実習前の基礎技法習得となるので疎かにせず作業を進めてほしい。また漆芸は木工作業が伴うため刃物の研ぎも習得しなければならない。手先を鍛えることで「手」も大切な道具の一つであるということも学んでもらう。

**【到達目標】**

- ・ 鉋、塗師屋小刀や彫刻刀の刃物研ぎの習得。道具の仕立てを通して、手先を鍛えることができる。
- ・ 漆刷毛の仕立て、各種のへら制作をそれぞれの作業に使えるように仕立てることができる。

**【授業計画・方法】**

1. 漆芸関係の道具についてのレクチャー、ビデオ鑑賞
2. 鉋の仕立て、鉋身の裏出し・裏押し
3. 鉋の仕立て、鉋身の裏出し・裏押し
4. 鉋身、曲り刀、三角刀、小刀の研ぎ
5. 鉋台の調整
6. 塗師屋小刀の仕立て、裏出し、裏押し
7. 塗師屋小刀の仕立て、裏出し、裏押し
8. へら制作(練へら、下地へら、塗りへら、刻苧へら、竹へら)
9. 漆刷毛仕立て、木地固め
10. へら置き台を作る
11. 下地刷毛(布貼り)、研ぎ、塗り
12. 塗り刷毛(和紙貼り)、研ぎ、塗り
13. 空研ぎ用、水研ぎ用砥石を作る
14. 毛先の成形、ほぐし、洗い、油付け
15. 道具の仕立て修了(鉋、塗師屋小刀、彫刻刀2本、下地刷毛、塗刷毛、木へら)

**【成果物】**

- ・ 下地へら、へら置き台、下地・塗り刷毛

**【評価の方法・基準】**

□方法 平常点(授業への参加状況30%)、道具の仕上がり具合(70%)

□基準 塗師屋刀は、へら制作できるくらいに仕立てているか。鉋は、檜坪板からへら木を作れるくらいに仕立てているか。下地刷毛、塗刷毛は、道具として使えるように丁寧にほぐしてあるか。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

**【テキスト・参考文献(資料)等】**

□参考文献 秋岡芳夫『木工(道具の仕立て)』美術出版社

□参考資料 授業内で「刃物研ぎ・漆刷毛制作ビデオ」鑑賞、関係資料・図書を提示紹介する。

【実習名】木工指物

【期間】10月23日（水）～24日（木）

【教室】崎山キャンパス工芸棟 漆芸実習室・その他

【担当】當間 孝（非）

【課題】木の特性、道具の使い方を学び指物木地を製作する。

【授業概要】（テーマ）指物技術の習得

指物技術を体験することで、どの様にして狂わない漆器木地が作れるのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・指物用木材に適した種類の性質について学び、狂いのない漆器木地制作を習得できる。
- ・指物技法に使用する道具の使い方を学び、課題作品を制作することができる。

【授業計画】

1. 指物用木材の種類と性質について
2. 木材の乾燥について
3. 指物に使用する道具について
4. 指物技法について
5. 課題の図面作成
6. 課題の製作手順について
7. 各自で製作開始
8. 鋸、鉋などの使い方について
9. 板材削り、木端面削り、木口面削り
10. 組立方法についての説明
11. 継手の種類、仕口について
12. 接着剤について（木工用ボンド、麦漆による接着の使用方法）
13. 接着面の平面を修正後、甲板、底板を接着する
14. 仕上げ方法（鉋掛け、ペーパー掛け）について
15. 完成品の評価。変形なく漆器木地が完成しているか。

【成果物】

- ・角盆（指物木地）

【評価の方法・基準】

□方法 平常点（授業への参加状況 30%）課題作品の提出（70%）

□基準 指物道具をうまく使いこなしているか。変形なく角盆の漆器木地を制作することができたか。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□参考文献 秋岡芳夫『木工具・使用法』創元社

**【実習名】** 髹漆①**【期 間】** 11月5日(火)～2月3日(月)**【教 室】** 首里崎山キャンパス工芸棟 漆芸実習室**【担 当】** 糸数 政次、當眞 茂**【課 題】** 髹漆(素地～下地～塗り)の一連の作業工程を習得しながら角盆、椀の制作を行う。**【授業概要】 (テーマ) 髹漆技術の習得**

使用する下地材料の特徴や道具の使用方法などを理解しながら基礎となる「指物」「挽物」の木地を使い髹漆工程を習得する。指物木地に「本堅地」、挽物木地に「蒔地」の下地法を施すので、それぞれの違いや特徴も合わせて理解する。

**【到達目標】**

- ・下地法である「本堅地」と「蒔地」を学び、角盆と椀を下地付けして、下塗り工程まで完成させることができる。
- ・下地材料の特徴や道具の使用方法を理解し、琉球下地であるニービ下地工程の手板を作成することができる。

**【授業計画】**

1. 漆・髹漆、指物・挽物や下地法などについてのレクチャー、ビデオ鑑賞
2. 木地調整、刻苧彫り、木地固め
3. 刻苧かい
4. 引込地付け
5. 布貼り
6. 布目揃え、布目擦り
7. 地付け(1回目)
8. 空研ぎ、地付け(2回目)
9. 水研ぎ、固め
10. 切粉付け(1回目)
11. 空研ぎ、切粉付け(2回目)
12. 水研ぎ、固め
13. 錆付け(1回目)
14. 空研ぎ、錆付け(2回目)
15. 水研ぎ、固め、捨塗り

**【成果物】**

- ・角盆、椀、銘々皿(拭漆)

**【成績評価の方法】**

**方法** 平常点(授業への参加状況30%)、課題作品の提出(70%)

**基準** 髹漆工程を理解することができたか。漆下地を下地へラで均一に付けることができたか。下地研ぎは、凹凸がなく平面に研ぐことができたか。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

**【テキスト・参考文献(資料)等】**

**参考文献** 『髹漆 増村益城』アロー・アート・ワークス DVD 文化庁『髹漆-増村益城のわざ-』日経映像 DVD 文化庁『髹漆 小森邦衛のわざ』桜映画社

授業内で「漆掻き職人ビデオ」鑑賞、関係資料図書を提示紹介する。

**【実習名】** 漆精製**【期 間】** 10月中に3日間の予定**【教 室】** 崎山キャンパス工芸棟 漆芸実習室・その他**【担 当】** 大内 隆 (非)**【課 題】** 採取された生漆を塗料としての漆 (精製漆) にする。**【授業概要】 (テーマ)** 漆精製技術の習得

精製 (手グロメ) 体験することで、生漆がどの様にして塗料としての漆液になるのかを学ぶ。

**【到達目標】**

- ・漆の精製方法を学び、採取された生漆から精製漆を作ることができる。
- ・中国産漆の輸入情報、日本産漆が採取できる地域の現状について学び、情報収集できる。

**【授業計画】**

1. 漆精製(手順・用具)についての説明
2. 道具の準備 (精製用舟、電熱コンロ、大・小の木べら)
3. 透スグロメ漆の精製方法
4. ナヤシ・クロメ作業 (ナヤシは漆を攪拌する、クロメは、漆が40℃の状態に攪拌する)
5. 乾き具合、透け、肉もちを確認するためのガラス板にツケを行う
6. 透スグロメ漆の乾燥状態の確認
7. 黒スグロメ漆の精製方法 (水酸化鉄を混入)
8. ナヤシ・クロメ作業 (ナヤシは漆を攪拌する、クロメは、漆が40℃の状態に攪拌する)
9. 乾き具合、透け、肉もちを確認するためのガラス板にツケを行う
10. 黒スグロメ漆の乾燥状態の確認
11. 精製でできた透スグロメ漆、黒スグロメ漆を200gのチューブに詰める。
12. 中国産漆の輸入に関する情報
13. 日本漆が採取できる地域の現状について
14. 漆精製業者が使用している、ナヤシ・クロメ機の構造、仕組みについて
15. 漆精製技術(手グロメ)のまとめ ・ レポート提出

**【成果物】**

- ・透スグロメ漆、黒スグロメ漆

**【評価の方法・基準】****□方法** 平常点 (授業への参加状況 50%)、レポート提出 (50%)**□基準** 精製した漆が、乾き具合、透け、肉もちも良い塗料に仕上がったか。漆の特性を把握することができたか。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。**【テキスト・参考文献(資料)等】****□参考文献** 『漆かき職人の一年 大森利三の技術』日本うるし掻き技術保存会

【実習名】木工ロクロ

【期 間】12月4日（水）～12月6日（金）

【教 室】崎山キャンパス工芸棟 漆芸実習室・その他

【担 当】千木良 芳弘（非）

【課 題】挽物道具の作り方、道具の使い方を学び挽物木地を製作する。

【授業概要】（テーマ）挽物技術の習得

挽物技術を体験することで、どの様にして椀、銘々皿などの漆器木地が作れるのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・挽物用刃物製作を体験し、鍛造技術の知識を習得できる。
- ・挽物技法に使用する道具の使い方を学び、漆器木地の制作に活かすことができる。

【授業計画】

1. 挽物用木材の種類と性質について
2. 挽物用刃物の作り方（鍛造技術）
3. 金槌で叩いて刃先を伸ばして形を整え、裏刃をグラインダーで整える
4. 刃先を曲げて挽物用鉋の形にして、油壺に入れ焼き入れを行う
5. 挽物用刃物の研ぎ方（裏刃を砥石で鏡面に研ぎつける）
6. 挽物に使用する道具について
7. 銘々皿のデザイン、図面の確認
8. 木工ロクロによる挽物の練習（銘々皿の内側）
9. 同じ形を作るための定規の作り方
10. 荒挽き、仕上げ挽き、ケサゲによる仕上げ方法
11. 木工ロクロによる挽物の練習（銘々皿の外側）
12. 木工旋盤による木地製作
13. 椀木地の作り方
14. 銘々皿の作成
15. 完成品の評価、レポートを提出する

【成果物】

- ・銘々皿2枚（拭漆用木地）

【評価の方法・基準】

□方法 平常点（授業への参加状況 30%）、レポート・課題作品の提出（70%）

□基準 鍛造技術、挽物技術を理解することができたか。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□参考文献 川北良造『木と生きる 木を生かす』祥伝社

□参考作品提示、関係資料配布

【実習名】琉球漆工史

【期間】10月1日（火）～2月3日（月）（全15回・毎週水曜日3時限目）

【教室】首里崎山キャンパス工芸棟 講義室・その他

【担当】上江洲 安亨（非）

【課題】琉球漆工史

【授業の概要】（テーマ）琉球王国の歴史的な背景を学び、作品制作研究の参考とする

これから漆器製作技術を学ぶ学生に対して、過去の本県で培われた漆工芸技術がどのように根付いていったか、琉球王国の歴史的な背景等を踏まえながら紹介していき、個々の学生の作品製作研究の参考となっていくことを目的とする。

琉球史の時系列の流れを把握させる講義を行ったうえで、琉球漆器の代表的な加飾技法・木地製作技法・原材料の特徴と歴史を各加飾及び木地製作技術を1講義程度毎に解説・紹介して体系的な知識・知見を得る契機となるような講義を行う。

【到達目標】

- ・琉球王国時代に培われた漆工芸技術がどのように根付いていったかを把握できる。
- ・琉球漆工芸の加飾の歴史背景を踏まえながら、沈金・螺鈿・堆錦・密陀絵技術の変遷を知ることができる。
- ・建造物への塗装・彩色の復元漆塗装施設（首里城）を見学することで、技術の知識を得ることができる。

【授業計画・方法】

1. 琉球史概説（古琉球①）
2. 琉球史概説（古琉球②）
3. 琉球史概説（近世琉球①）
4. 琉球史概説（近世琉球②）
5. 琉球絵画と貝摺奉行所の機能
6. 琉球漆工芸の加飾の歴史 ～沈金～
7. 琉球漆工芸の加飾の歴史 ～螺鈿～
8. 琉球漆工芸の加飾の歴史 ～堆錦～
9. 琉球漆工芸の加飾の歴史 ～密陀絵～
10. 琉球漆工芸の加飾の歴史 ～箔絵～
11. 琉球漆器の木地構造の歴史 ～巻胎・曲輪・挽物～
12. 琉球漆器の原材料 ～主に色材を中心に～
13. 琉球王国時代の漆器実地見学 ～浦添市美術館常設展示室見学～
14. 首里城跡実地見学 ～復元漆塗装施設の見学を中心に～
15. 琉球王国時代の漆工芸資料の図案（デザイン）・技術から学びとれるもの・レポート提出

【成果物】

- ・レポート

【履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）】

- ・新城俊昭『高等学校 琉球・沖縄史』を一読し、琉球史について古琉球から近世琉球期までの各王統の流れなどの時系列の流れについて把握していること。

【評価の方法・基準】

□方法 平常点（授業への参加状況60%）、レポート提出（40%）

□基準 琉球漆工芸の沈金・螺鈿・堆錦・密陀絵技術の変遷を語るができるか。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考文献 荒川浩和・徳川義宣『琉球漆工芸』日本経済新聞社 『沖縄美術全集2漆芸』沖縄タイムス社
- 必要な資料は適宜配布する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25341	漆芸Ⅱ	14単位 通年	3	実技	水上 修 系数 政次 當眞 茂 非常勤講師

■テーマ 漆芸分野のメインとなる「琉球漆芸」を含む「日本漆芸全体」をバランス良く学ぶ

#### ■授業の概要

漆芸Ⅱでは、漆芸Ⅰの髹漆工程を仕上げながら、主に加飾技法や造形技法を学ぶが、加飾技法では本学の特徴である琉球漆芸（堆錦・箔絵・密陀絵）や日本漆芸の蒔絵をその技法と共に素材を研究しながら実習を進める。造形技法では乾漆技法をとおり精度の高い造形や立体造形での幅広い造形方法を追求する。自由制作では各自がテーマを決め、計画を立てて進めていくが、卒業制作の前段階として主体的に取り組んでほしい。加飾表現の基礎となるスケッチ、作家活動や就職において重要なポートフォリオ制作や作家の講義を聞く現代作家論は、技法習得だけでなく視野を広げるためには欠かせない要素となる。

#### ■到達目標

技法習得だけでなく、歴史や文化の違いも含めて幅広く思考する中から各自の「現代における表現」を探求してもらいたい。漆芸Ⅱをとおして学んだことを如何に4年次の卒業制作に結びつけていくかが重要になるので、卒業制作を前提として3年次をとらえてほしい。

- ・スケッチをもとにした独自のアイデアを生み、絵画表現・造形表現ができる。
- ・乾漆、琉球漆芸や日本漆芸の加飾技法の手順を学び次年度の卒業制作に対応できる。
- ・造形にバランス良く加飾が施せる。
- ・自身の制作や作品について教員とディスカッションし口頭発表ができる。

#### ■授業計画・方法

1. 漆芸Ⅱの概要説明、スケッチ
2. 髹漆②（塗り）
3. ポートフォリオ制作
4. 乾漆（造形）
5. 立体造形
6. 堆錦
7. 箔絵・密陀絵
8. 自由制作（造形）
9. 前期講評会
10. 自由制作（塗り）
11. 乾漆（塗り）
12. 蒔絵（平蒔絵）
13. 蒔絵（研出蒔絵）
14. 現代作家論
15. 後期講評会、2月 工芸専攻3年生展を行う。レポート提出  
定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・非常に多くの道具や材料を使うため、基本的な取り扱いを守ること。
- ・参考文献に掲げた文献の中から2冊以上を学期中に読むこと。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点（授業への参加状況30%）、レポートや課題作品の提出（70%）の割合で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

各授業の技法や素材の扱いが円滑にできるか。素材や技法を思考とともに独自の表現に結びつけているか。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

□参考文献 小松大秀/加藤寛『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂、四柳嘉章『漆の文化史』岩波新書、室瀬和美『漆の文化』角川選書、松田権六『うるしの話』岩波文庫

□テキスト 教員から関係資料の配布などがある。

- 【実習名】 スケッチ  
 【期 間】 4月上旬に2日間の予定  
 【教 室】 漆芸実習室2  
 【担 当】 水上 修、當眞 茂  
 【課 題】 スケッチを基に図案の作成。

【授業の概要】 (テーマ) 加飾技法に合った図案作成

3年次では、堆錦・箔絵・密陀絵・沈金・蒔絵と加飾表現の授業があるが、それぞれの表現技法や素材を理解し「植物」をテーマとしたスケッチをもとにし図案を検討しなければならない。そのためのスケッチは、ただ描けば良いというのではなく、これらの要素を常に頭に入れながら行う必要がある。スケッチをもとにそれぞれの加飾表現に合った図案の制作までを行う。

【到達目標】

- ・スケッチや図案の基本的な考え方を理解できる。
- ・それぞれの加飾技法や素材の特徴を理解し、どの様な図案が適しているかの的確に判断できる。
- ・それぞれの加飾表現の特徴や差異を理解し図案が作成できる。

【授業計画・方法】

1. スケッチの意味や方法についての確認
2. 春季休業中の課題であるスケッチについて発表
3. 加飾技法の表現について
4. 加飾技法の素材の特徴について
5. 堆錦について
6. 箔絵について
7. 密陀絵について
8. 沈金について
9. 蒔絵について
10. 研出蒔絵について
11. 平蒔絵について
12. 加飾技法へのスケッチの活かし方
13. 図案の検討
14. 図案の検討、決定
15. 講評会

【成果物】

- ・4種類の各加飾技法の図案

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点(授業への参加状況30%)、課題作品の提出(70%)の割合で総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
加飾技法を理解しスケッチをもとにした独自の図案を適切に作成しているか。

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 参考文献 松田権六『図案日誌』総合工房 田口善国『写生図案集』
- 教員から必要な資料は適宜配布する。

【実習名】髹漆②（塗り）

【期 間】4月上旬～6月上旬

【教 室】首里崎山キャンパス工芸棟 漆芸実習室

【担 当】當眞 茂、築地 久弥（非）

【課 題】髹漆（素地～下地～塗り）の一連の作業工程を習得しながら器の制作を行う。

【授業概要】（テーマ）上塗り技術の習得

使用する塗り漆の特性や道具の使用方法などを理解しながら下地工程を終了した角盆、椀を使い塗り工程を習得する。

【到達目標】

- ・ 研ぎ炭の種類や特徴を理解し、研ぎ炭の成形や研ぎ方を学び、平滑な面に仕上げることができる。
- ・ 上塗り漆の乾燥調製、漆の濾し方、刷毛さばきを学び、刷毛目もなくゴミもない上塗り技術を習得できる。

【授業計画】

1. 漆の特性、道具の使い方などについてのレクチャー
2. 捨塗（黒スグロメ漆を薄く刷毛塗りした後、漆風呂で乾燥）
3. 朴炭を使い水研ぎ（徹底的に研ぎつける）
4. 化粧錆付け
5. 水研ぎ
6. 下塗り（黒スグロメ漆）
7. 駿河炭を使い水研ぎ
8. 中塗り（黒スグロメ漆）
9. 水研ぎ
10. 擦り漆（生漆を綿で擦りつけ、ティッシュで拭ききって漆風呂で乾燥）
11. 上塗り漆の調合
12. 調合された漆が適当か、どうか手板に塗って漆風呂で乾燥テストを行う
13. 上塗り漆を美吉野紙で濾して、漆の中のゴミを取る
14. 上塗り（空気中のゴミが付着したりして生じたゴミを節上げ道具を使い取り上げる）
15. 成果物を完成させる。講評会。

【成果物】

- ・ 角盆、椀

【評価の方法・基準】

□方法 平常点（授業への参加状況30%）、課題作品の提出（70%）

□基準 髹漆技法における曲面への作業の理解度。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□参考文献 『漆かき職人の一年』日本うるし掻き技術保存会

DVD『漆かき職人の一年』日本うるし掻き技術保存会

DVD『髹漆 小森邦衛のわざ』桜映画社

- 【実習名】 ポートフォリオ演習  
【期間】 4月中の3日間  
【教室】 工芸棟コンピューター室、スタジオ  
【担当】 山田 祥包 (非)  
【課題】 ポートフォリオの作成

【授業概要】 就職活動を視野に入れ、大学における成果を作品集としてまとめることを目的とする。

#### 【到達目標】

- ・自身の作品を効果的に第三者へ見せる事のできるポートフォリオ制作が行えること。
- ・カメラやIllustratorなどのソフト操作ができること。

#### 【授業計画】

1. ポートフォリオ概要説明 (デザイン分野への就職用ポートフォリオとは?)
2. ページネーション、構成、説明順、キャプション、自己紹介ページについて
3. 写真撮影の基礎 デジタル一眼レフの基本操作
4. 露出とシャッタースピード、被写界震度、ISO の設定
5. 実際に作品を撮影する①  
背景紙、背景布、木板、布製マットなど背景の違いによる作品の印象の違い
6. 実際に作品を撮影する② 自然光、照明位置、レフ板の有無による見え方の違い
7. デジカメデータをパソコンへ取り込み① 解像度、画像サイズ
8. デジカメデータをパソコンへ取り込み② DPI と出力サイズの関係、トリミング
9. Photoshop によるフォトタッチの基礎  
明るさ補正、コントラスト補正、カラー補正、任意のかたちへの切り抜き
10. Illustrator によるレイアウトの基礎
11. 写真の配置、余白のとり方、文字 (キャプション) の入れ方
12. Illustrator にて各自レイアウト① (個別指導)
13. Illustrator にて各自レイアウト②  
自己紹介ページ、作品間の扉ページ、課題指示内容や時間数などのキャプション
14. Illustrator から出力作業、タイトル・キャプション文字のアウトライン化
15. クリアファイルへ差し込み、ページ校正チェック、総括

#### 【評価の方法・基準】

- 方法 ポートフォリオ本体60%・平常点 (授業での発言) 40%の割合で評価し、採点する。  
□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### 【学生準備】

クリアファイルの購入

#### 【専攻準備】

撮影台、撮影用木板、背景紙、布、デジタル一眼レフカメラ、三脚、レフ板、ライティング、Photoshop、Illustrator がインストールされている端末、カードリーダー、保存用USBメモリ、解像度300dpi以上の精度のカラー出力できるプリンター

- 【実習名】 立体造形  
【期 間】 5月中に2日間の予定  
【教 室】 漆芸造形室  
【担 当】 鈴木 伸吾 (非)  
【課 題】 樹脂を使用した立体造形の可能性を探る

【授業の概要】 (テーマ) 漆以外の異素材を使う経験から視野を広げ、作品制作への応用と展開力を身につける。  
樹脂や化学塗料等を使った型取りの実習を行う。乾漆技法で行う型取りだけでなく、幅広い型取りの方法を使いこなすことにより、様々な造形作品を制作する際に有効な手段となる。

【到達目標】

- ・幅広い型取り方法を学び様々な造形に生かすことができる。

【授業計画・方法】

1. 立体造形としての漆
2. 塗装表現の意義
3. FRPとは
4. サンプル紹介
5. 型取りについて
6. シリコンについて
7. シリコン型取実習について
8. 離型剤について
9. ビデオ「ロンミュエック作品制作」
10. スライド「鈴木伸吾作品制作紹介」
11. 積層シリコン型取
12. 無垢のシリコン型取
13. ウレタン樹脂注型
14. ビデオ「ハリボテ日本」
15. 質疑応答・レポート提出

【成果物】

- ・シリコン型、ウレタン樹脂原型

【評価の方法・基準】

□方法 平常点 (授業への参加状況 60%)、レポート提出 (40%)

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
漆以外の素材を使った型とり

【テキスト・参考文献(資料)等】

- 参考文献 柳原明彦『石膏技法』美術出版社 永井武志『立体デザイン模型』美術出版社
- 講師の作品、サンプル、作品、図録など。

- 【実習名】 乾漆  
 【期間】 6月上旬～1月31日  
 【教室】 漆芸実習室2  
 【担当】 水上 修、糸数 政次、築地 久弥（非）  
 【課題】 乾漆技法を用いて盛器の制作を行う。

【授業の概要】（テーマ）石膏原型を使った精度の高い乾漆技法の習得  
 ゲージを使い精度の高い原型作りをもとに麻布を貼り重ね乾漆素地を制作し上塗まで行う。石膏取りの技法や複雑な曲面を造形する基本的技法を習得する。また、非常勤講師による応用的な乾漆技法についても学ぶ。

【到達目標】

- ・乾漆技法での素地制作・研ぎ・塗りに関して曲面造形の作業が的確にできる。
- ・乾漆の様々な作品を鑑賞し、その特徴や可能性等を理解できる。

【授業計画・方法】

1. 乾漆技法・器についてのレクチャー
2. 盛器のデザイン検討・決定
3. ゲージ作り（平面図・立面図）
4. 粘土原型作り
5. 石膏雌型・雄型・石膏原型完成、乾燥・修整・離型剤塗り
6. 切粉付け
7. 和紙貼り
8. 布貼り
9. 和紙貼り（外側）
10. 切粉付け（外側）、強制乾燥、前期講評会
11. 縁造り
12. 下塗
13. 中塗
14. 上塗
15. 後期講評会

【成果物】

- ・ゲージ（平面図・立面図）、乾漆盛器

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点（授業への参加状況30%）、課題作品とレポートの提出（70%）の割合で総合的に評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
 乾漆技法における曲面の認識と作業工程の理解度。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考文献 『秘技探訪 日本美術の伝統技法』講談社 DVD 文化庁『髹漆-増村益城のわざ』日経映像
- 教員から必要な資料は適宜配布する。
- 教員の乾漆作品や作品集の提示などがある。

- 【実習名】 堆錦  
 【期 間】 6月 中旬  
 【教 室】 漆芸実習室  
 【担 当】 當眞 茂、儀間 真紗夫（非）  
 【課 題】 加飾技術の堆錦によるパネル制作

【授業の概要】（テーマ） 琉球漆芸独特の加飾技法である堆錦技法を学ぶ

スグロメ漆を焼くことで漆がどのように変化するのか、どの程度粘りのある状態にするのかを学ぶ。漆と顔料の調合の割合を把握し、ハンマーで叩きながら堆錦餅を作る。堆錦餅を均一に薄く延ばし、模様を転写を行い堆錦刀で模様を切り抜く。棒金（ボーガニー）を使い立体的に表現してパネルに貼り付け仕上げる。

【到達目標】

- ・堆錦の特徴と作業工程を学び理解することができる。
- ・堆錦餅を作ることで、スグロメ漆の焼き具合と顔料の調合割合を学ぶことができる。
- ・顔料による着色方法や棒金（ボーガニー）を使用して、写実的で立体感のある表現ができる。

【授業計画・方法】

1. 堆錦についての説明（王朝時代から現代までの技術の変遷）
2. スグロメ漆を直火で焼いて、焼漆を作る
3. 焼漆に顔料を混ぜ、ハンマーで叩きながら堆錦餅を作る
4. 堆錦用機械の使用方法和注意事項の説明
5. 電動式と手動式のローラーを使用して、堆錦餅を薄く延す
6. 堆錦餅の裏に接着用の焼漆を塗って、作業板に貼り付ける
7. 堆錦専用の道具の名称と使用方法の説明
8. スケッチの授業で作成した図案を基に図案を仕上げる
9. 堆錦制作の実演指導
10. 作業板に貼った堆錦餅に、置目（転写）をして堆錦刀で切り抜く
11. 棒金（ボーガニー）で立体感を出す
12. 顔料で着色をして、写実的な表現を学ぶ
13. 堆錦の艶出し
14. 講評会
15. 質疑応答、ディスカッション・レポート提出

【成果物】

- ・堆錦で加飾を施したパネル作品 1 点

【評価の方法・基準】

- 方法 課題作品とレポートの提出（70%）、平常点（授業への参加状況 30%）による総合評価
- 基準 堆錦の特徴を理解しパネル作品を完成できているかなど、到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考文献 『沖縄美術全集 2 漆芸』 沖縄タイムス社 『漆の技 堆錦』 浦添市美術館
- 作品・図録、道具等を紹介する。

- 【実習名】 箔絵・密陀絵  
 【期間】 7月 月上旬の4日間  
 【教室】 漆芸実習室2・漆芸加飾室  
 【担当】 当真 茂  
 【課題】 加飾技術の箔絵・密陀絵によるパネル制作

【授業の概要】 (テーマ) 琉球漆芸独特の加飾技法である箔絵・密陀絵技法を学ぶ

箔絵では絵付けをするための漆の精製方法や金箔の取り扱い方、漆の乾燥具合の確認方法を学び、密陀絵では乾性油を加熱することで密陀絵に使うボイル油の作り方や乾燥具合、粘度調整の仕方、彩色油の作り方を学んだ上でパネル作品を制作する。

【到達目標】

- ・箔絵と密陀絵それぞれのパネル作品を完成させることで、各技法の特徴と作業工程を学び理解することができる。
- ・箔絵での漆や金箔の扱い方、密陀絵でのボイル油の作り方や粘度調整の仕方を学び理解できる。

【授業計画・方法】

1. 箔絵についてのレクチャー
2. 箔絵見本パネルの鑑賞・解説
3. 箔下漆の調合・調整
4. スケッチの授業で作成した図案を基に置目を行う
5. 蒔絵筆で描く練習、絵付け、箔のあかし方
6. 箔貼りのタイミングの取り方
7. 針木戸による引掻きや、黒漆で線描き等を行い立体的に表現する
8. 蒔絵筆の仕組みと掃除の仕方について説明
9. 密陀絵についてのレクチャー
10. 密陀絵見本パネルの鑑賞・解説
11. 桐油と荏胡麻油を混ぜてボイルする
12. ボイルした油に顔料を混入し彩色油を作り濾す
13. 密陀絵図案の配色確認
14. スケッチの授業で作成した図案を基に密陀絵を描く
15. 講評会、ディスカッション・レポート提出

【成果物】

- ・箔絵と密陀絵で加飾を施したパネル作品各1点 (合計2点)

【評価の方法・基準】

□方法 課題作品とレポートの提出 (70%)、平常点 (授業への参加状況 30%) による総合評価

□基準 箔絵と密陀絵の特徴を理解しパネル作品を完成できているかなど、到達目標を観点として履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献 (資料) 等】

□参考文献 『沖縄美術全集2 漆芸』沖縄タイムス社 『琉球漆工芸』日本経済新聞社

□作品・図録、道具等を紹介する。

- 【実習名】 自由制作  
【期間】 7月中旬  
【教室】 漆芸実習室2  
【担当】 水上 修、當眞 茂  
【課題】 各自がテーマを決め主体的に計画を立て、立体造形作品を制作する。

【授業の概要】 (テーマ) 卒業制作前段階としての作品制作

自由な発想からデザインを決定し発泡スチロールを原型とした造形作品を制作する。素地、下地、塗り、加飾と全体的な計画を主体的に立て作業を進めていくことは、卒業制作の前段階として重要である。

【到達目標】

- ・発想から作品完成まで主体的に作業計画を立て実行できる。
- ・造形作品として展示方法も考えた独自性のある作品制作を行える。
- ・一般的な加飾だけでなくテクスチャー等の幅広い表現を生かすことができる。

【授業計画・方法】

1. 課題説明
  2. デザイン検討
  3. ディスカッション
  4. 展示方法の検討
  5. 決定
  6. 発泡スチロールの造形について
  7. 原型作り
  8. 成形の仕上
  9. 布貼り
  10. 下地
  11. 下塗
  12. 中塗
  13. 上塗
  14. 加飾、仕上げ
  15. 講評会
- 定期試験は実施しない。

【成果物】

- ・立体造形作品

【評価の方法・基準】

□方法 平常点(授業への参加状況30%)、課題作品の提出(70%)の割合で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
造形作品としての独自性や計画通りに作業を進めることが出来ているか。

【テキスト・参考文献(資料)等】

□参考文献 秋元雄史『工芸未来派アート化する新しい工芸』六耀社

□教員より作品集の提示・関係資料の配布などがある。

【実習名】 蒔絵

【期間】 10月1日（火）～1月31日（金）

【教室】 漆芸加飾室

【担当】 水上 修、田口 義明（非）

【課題】 日本漆芸の代表的な加飾技法である蒔絵（研出蒔絵・平蒔絵）のパネル作品を制作する。

【授業の概要】（テーマ）蒔絵技法を通して加飾技法の基本を学ぶ

日本漆芸の代表的な加飾技法である蒔絵、その中でも基礎となる研出蒔絵と平蒔絵の技術を習得するが、扱う道具や材料の特徴を理解することが重要となる。蒔絵技法の習得は、漆液や加飾技法全般の特徴を学ぶ基本となり、琉球漆芸の堆錦・箔絵・密陀絵・沈金のそれぞれの特徴を再確認することにも繋がる。また、非常勤講師による蒔絵以外の加飾技法についても学ぶ。

【到達目標】

- ・金属粉（金粉・銀粉）を蒔く、研磨するなどの蒔絵技法から素材や加飾技法全般の特徴をつかむ。
- ・図案の表現を金属粉を使い効果的に見せることができる。

【授業計画・方法】

1. 〈研出蒔絵〉説明、粉筒制作、絵漆作り
2. 置目、地塗り、蒔絵粉筒蒔き
3. 粉固め（透漆）
4. 塗込み
5. 研出し
6. 胴擦り
7. 摺漆、磨き仕上げ
8. 〈平蒔絵〉説明
9. パネル呂色磨き仕上げ
10. 置目取り、地塗り、蒔絵粉毛棒蒔き
11. 粉固め（生正味漆）
12. 研ぎ、胴擦り、磨き仕上げ
13. 置目取り、毛打ち、摺漆
14. 磨き仕上げ
15. 講評会

【成果物】

- ・粉筒
- ・研出蒔絵と平蒔絵のパネル作品、非常勤講師の指導による加飾作品

【評価の方法・基準】

□方法 平常点（授業への参加状況30%）、課題作品とレポートの提出（70%）の割合で総合的に評価する。

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

様々な道具の扱い、技法の習得・素材や作業工程の理解度。

【テキスト・参考文献（資料）等】

□参考文献 小松大秀／加藤寛『漆芸品の鑑賞基礎知識』至文堂 『室瀬和美 作品集』新潮社

『蒔絵 松田権六』毎日新聞社 柳橋眞『蒔絵 田口善国』アロー・アート・ワークス

□DVD 鑑賞、作品集や作品の提示、関係資料の配布などがある。

- 【実習名】 現代作家論  
 【期間】 12月中に1日の予定  
 【教室】 講義室（予定）  
 【担当】 未定（非）担当者は毎年変更する。  
 【課題】 漆芸作家や工芸関係者のお話を伺う中から実社会への幅広い教養を深める。

【授業の概要】（テーマ） 社会における工芸や漆芸について幅広い見識を持つ

実社会で活躍している漆芸作家や工芸関係者の方々の活動状況や専門的なお話を伺う。漆芸作家を中心に、道具や材料を作っている職人、茶道・華道家、料理研究家、評論家、ギャラリーオーナー、キュレーター、バイヤー等、様々な職種の方々の生き様を伺うことは、社会に出るための重要なステップとなる。

【到達目標】

- ・社会で働く、貢献できる、如何に活動を続けていくかを考える。
- ・作品制作に対する強い意志を持つ。

【授業計画・方法】

1. 講師の紹介
2. 学生時代について
3. 何を考え、どの様な作品を制作していたか？
4. 卒業制作について
5. 大学院では何を考え、どの様な作品を制作していたか？
6. 修了制作について
7. 社会へ出てどのように活動を続けることができたか？
8. 作品制作と生活について
9. 現在の制作活動について
10. 作品について考えること
11. 作品の解説
12. 技法について
13. 表現について
14. 質疑応答
15. まとめ、レポート提出

【成果物】

- ・レポート

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点（授業への参加状況70%、レポート30%）で評価する。
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
講師のお話について内容を理解できているか。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考文献 東京国立近代美術館工芸課編『工芸の見かた・感じかた』淡交社
- 講師のレジュメ、作品、資料や図録など。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25343	漆芸Ⅲ	15 単位 通年	4	実技	水上 修 系数 政次 當眞 茂

■テーマ 卒業制作

#### ■授業の概要

自主研究をもとに、4年間の集大成として各自の独創的で自由な発想から卒業制作を行う。

教員の実務経験を背景にした指導を行い、地域社会との連携を念頭に具体的な方法論を実践的に学ぶ。

#### ■到達目標

- ・発想・準備から完成・発表までの工程を各自が自主的に考え進められるように取り組むことができる。
- ・全国レベルでの基準を各自で設定し、発想・表現・技術・素材を生かす等の要素を高いレベルで目指す。

#### ■授業計画・方法

1. 作品テーマの検討、ディスカッション、エスキース
2. 作業工程計画、道具・材料の検討と準備
3. 図面・図案の作成
4. テストピースの制作
5. 技法の習得、実験
6. 素地制作（木胎・乾漆・その他）
7. 髹漆工程（下地付け）
8. 髹漆工程（下塗り）
9. 髹漆工程（中塗り）
10. 髹漆工程（上塗り）
11. 加飾工程の準備及び練習と図案の再検討
12. 加飾工程の仕上げ
13. 展示機材等の製作
14. ポートフォリオ作成
15. プレゼンテーション及び講評会

卒業制作展示・ポートフォリオ提出

定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・卒業作品デザイン決定までは、毎週研究会を行う。
- ・教員3名が指導にあたる。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 作品及びポートフォリオの提出（70%）、平常点（授業への参加状況 30%）

□基準 漆芸技法の特性を理解し、技術を習得、作品制作に活かされているか。授業への取り組みを踏まえ、作品の完成度を総合的に勘案し、到達目標を観点として履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

□参考文献 樋田豊次郎『工芸家「伝統」の生産者』美術出版社

秋元雄史『工芸未来派 アート化する新しい工芸』六耀社

授業内でDVD鑑賞、作品集の提示、関係資料の配布。

- 【実習名】 卒業制作自主研究  
 【期間】 4月8日（月）～ 4月26日（金）  
 【教室】 首里崎山キャンパス工芸棟 漆芸実習室  
 【担当】 水上 修、糸数 政次、當眞 茂  
 【課題】 3年間学んだことを基にテーマに沿った研究を行う。

【授業の概要】（テーマ） 卒業制作のための技法・素材の研究

春季休業中より卒業制作のアイデアを出し各自である程度の絞り込みを行った上で、4月より学生全体でプレゼンテーション、ディスカッションを行い、教員からのアドバイスを基にテストピース制作や実験を踏まえテーマを決め制作する作品を決定する。

【到達目標】

- ・卒業制作のためには自主研究は重要な準備となるため、あらゆる角度から各自の漆芸表現に関する可能性を探りアイデアを創出し、作品制作へと繋げることができる。

【授業計画・方法】

1. アイデアの検討
2. アイデアスケッチ
3. プレゼンテーションとディスカッション
4. 技法及び技術の個別指導、アドバイス
5. テストピースの制作：素地の構造を検討、材料選定、制作方法の検討
6. テストピースの制作：塗り技法と工程の検討
7. テストピースの制作：螺鈿技法の材料選定と制作方法の検討
8. テストピースの制作：沈金技法の道具制作、材料選定
9. テストピースの制作：密陀絵技法の表現方法と工程の検討
10. テストピースの制作：箔絵技法の表現方法の検討
11. テストピースの制作：蒨絵技法の材料選定、制作方法の検討
12. テクスチャーの検討及び試作
13. モデルの制作
14. 制作工程の検討及び計画表作成
15. デザイン決定・最終プレゼンテーション

【成果物】

- ・アイデアスケッチ、モデル、テストピース

【評価の方法・基準】

- 方法 平常点（授業への参加状況30%）、成果物・プレゼンテーション（70%）による総合評価  
 □基準 授業への取り組みを踏まえ、テストピースの完成度など到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

【テキスト・参考文献（資料）等】

- 参考文献 秋元雄史『工芸未来派』梧桐書院
- 授業内で作品集の提示、関係資料の配布

- 【実習名】** 卒業制作  
**【期間】** 5月7日（火）～ 1月27日（月）  
**【教室】** 首里崎山キャンパス工芸棟 漆芸実習室  
**【担当】** 水上 修、糸数 政次、當眞 茂、外館 和子（非）  
**【課題】** 自主研究を基に4年間の集大成として、各自の独創的で自由な発想から卒業制作を行う。

**【授業の概要】**（テーマ） 漆芸技法による卒業制作  
これまで学んできた技法や培ってきた感性を生かし、最後の作品制作で自己表現する。作品提出後は卒業制作展の展示計画や運営作業を進める。

**【到達目標】**

- ・全国レベルを基準にすることを忘れず制作し完成させることができる。
- ・卒業制作の作品やポートフォリオを作成し、各自の就職活動などに活用できる。

**【授業計画・方法】**

1. 素地工程（石膏型作り）
2. 素地工程（木地作り）
3. 下地工程
4. 塗り工程（呂色仕上げ）
5. 塗り工程（塗立て仕上げ）
6. 加飾工程（螺鈿）
7. 加飾工程（沈金）
8. 加飾工程（密陀絵）
9. 加飾工程（箔絵）
10. 加飾工程（蒔絵）
11. 加飾工程（テクスチャー）
12. 卒業制作展の運営計画と展示
13. 外部有識者による講評会
14. 内覧会によるプレゼンテーション及び講評会
15. ポートフォリオを作成し提出

**【成果物】**

- ・作品と4年間のポートフォリオを提出

**【評価の方法・基準】**

- 方法 平常点（授業への参加状況 30%）、作品とポートフォリオの提出・プレゼンテーション（70%）による総合評価
- 基準 授業への取り組みを踏まえ、作品の完成度を総合的に評価する。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

**【テキスト・参考文献（資料）等】**

- 参考文献 樋田豊次郎『工芸家「伝統」の生産者』美術出版社
- 授業内で作品集の提示、関係資料の配布

科目コード 授業科目名 単位数・学期 受講年次 授業区分 担当教員名

25242	漆芸科学	2単位 後期 (集中)	2	講義	北野 信彦 (非)
-------	------	----------------	---	----	-----------

■テーマ 漆文化財を総合的に理解するために必要な基本的な漆芸科学の方法と具体的な成果を学ぶ

#### ■授業の概要

近年の文化財科学の手法を用いた漆芸科学の研究成果により、日本の漆文化財の歴史の長さや世界的な広がり（グローバルイズム）に関する新たな側面が解明されるようになってきた。また、近年の社会の変化に配慮して国（文化庁）指導の文化財保護政策も幾つか変換され、特に文化財建造物の保存・修理に際しては造営当初のオリジナルの状態を生かした修理が基本とされ、そのための材質・技法の基礎調査には漆芸科学の方法が採用されている。本授業では、担当教員がこれまで実際に担当した具体的な事例から、その方法と内容、成果を体系的に学習する。さらにこのような漆文化財を将来に守り・伝えるための基本的な保存科学的な手法と理論についても併せて総合的に学べるよう配慮する。

#### ■到達目標

- ・日本の漆文化の技術と材料に関する基本的な歴史的な流れの概要を理解できる。
- ・漆文化財の性格を把握するために今日実施されている文化財科学的な調査方法と成果を理解できる。
- ・貴重な漆文化財を具体的に守り、伝えるために実施されている保存科学・修復技術的な調査方法と成果を理解できる。

#### ■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス
2. 漆工の歴史と漆文化財の概要
3. 漆工の文化財科学①：漆の化学と漆芸科学の調査方法
4. 漆工の文化財科学②：縄文文化と極東文化、和人文化とアイヌ文化との繋がり
5. 漆工の文化財科学③：平安期の貴族文化と漆工技術
6. 漆工の文化財科学④：蒔絵文化と什器、甲冑などの武具塗装
7. 漆工の文化財科学⑤：桃山文化期の東南アジアからの輸入漆塗料と輸出漆器（南蛮様式の初期輸出漆器）
8. 漆文化財の修復技術①：出土漆器
9. 漆文化財の修復技術②：文化財建造物
10. 漆文化財の修復技術③：漆工芸品
11. 漆文化財の保存科学①：温・湿度調査と生物被害対策
12. 漆文化財の保存科学②：光・照明と空気環境対策
13. 漆文化財の保存科学③：文化財レスキューと漆工品の緊急取り扱い
14. 授業のまとめと今後に向けた学習課題
15. 定期試験

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・中学・高校時代に勉強した日本史・日本美術史の教科書を復習して授業に臨むこと。また、参考文献である『日本の美術シリーズ（至文堂）』の漆工に関する図書は参考となるので、少なくとも1冊以上は事前に学習しておくこと。

#### ■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（55%）、小テスト（15%）、定期試験（30%）
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

- 参考文献：沢田悟一『日本漆工の研究（美術出版社）』、鈴木規夫『日本の美術 451 漆工品の修理（至文堂）』、山崎剛『日本の美術 426 海を渡った日本漆器 I（至文堂）』、四柳嘉章『漆の文化史（岩波）』など
- 教科書は使用しないが、授業中に関係する内容をプリントしてその都度配布する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25342	漆芸特別演習	2単位 前 (集中)	3	演習	當眞 茂

■テーマ 琉球沈金技法によるパネル制作

#### ■授業の概要

沖縄の沈金刀の作り方と彫り方を体験し作品を制作することで、琉球沈金の技術を身につけ知識を深める。

#### ■到達目標

- ・琉球沈金に必要なゼンマイ刀と曲がり刀の2種類の道具を作り、琉球時代と現在の彫りの違いを学び理解できる。
- ・沖縄と他産地との沈金の道具や、彫り表現の違いを学んで知識を深めることができる。

#### ■授業計画・方法

1. 琉球沈金についての説明
2. 現在のゼンマイ刀と曲がり刀についての説明
3. ゼンマイ刀の製作・削りと研ぎ
4. ゼンマイ刀の製作・曲げ成形
5. 曲がり刀の製作・削りと研ぎ
6. 曲がり刀の製作・曲げ成形
7. 道具作りに対するの質疑応答・ディスカッション
8. 参考作品や資料の解説
9. 手板での彫り練習・道具の調整
10. エスキース・図案作成
11. 沈金彫り
12. 朱合漆の摺り込み
13. 金粉入れ
14. プレゼンテーション及び講評会
15. 記録レポート作成

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・全日程参加すること。
- ・レポートはA4サイズで提出。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 課題作品とレポートの提出（70%）、平常点（授業への参加状況30%）による総合評価

□基準 道具製作の達成度と、図案や作品の完成度を総合的に評価する。到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

□参考文献 『館蔵 琉球漆芸』 浦添市美術館 1995年 DVD文化庁『沈金 前史雄のわざ』桜映画社  
参考作品と見本道具を提示する。

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25102	絵画（工）	2単位 前期	1	演習	香川亮, 非常勤講師

■テーマ 様々な素材と様々な絵画技法（写真技法含む）による絵画制作

#### ■授業概要

前半は、写真技法（フォトグラム）や様々な絵画技法（直接表現・間接表現）による作品制作を行う。後半では、素材と技法の応用表現研究として、前半に制作した作品素材と各自が収集した身近な素材（自身の研究領域を含む）を制作材料とした絵画技法（コラージュ）による課題制作に取り組む。授業を通して、基礎的かつ一般的包括的な絵画表現について学ぶ。

#### 【到達目標】

- ・様々な絵画技法（写真技法含む。）を実践体験し、絵画表現について理解を深め作品制作を行うことができる。
- ・素材と技法の応用表現研究となる課題制作について理解し絵画作品として表現することができる。
- ・論理的に口頭での発表や記述を行うことができ、他者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。

#### ■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス、写真技法（フォトグラム）の準備、説明
2. 写真技法（フォトグラム）による制作：撮影工程、素材の応用
3. 写真技法（フォトグラム）による制作：現像工程・停止工程・定着工程
4. 写真技法（フォトグラム）による制作：仕上げ、応用表現、完成
5. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：①フロッタージュ、②パチック
6. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：③デカルコマニー、④スパッタリング
7. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：⑤マーブリング
8. 様々な絵画技法の準備、説明、制作：⑥モノタイプ
9. 課題「様々な絵画技法及び写真技法による作品と身近な素材の再構成による絵画制作」準備、説明
10. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：発想及び構想計画
11. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：コンセプトの立案
12. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：制作途中作品の中間チェック
13. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：素材と技法の応用、展開
14. 絵画技法（コラージュ）による課題制作：仕上げ、完成、コメントペーパー作成
15. ディスカッション会場設営、ディスカッション、成果作品及びコメントペーパー提出、片付け

※定期試験は実施しない。

#### ■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- ・実習時に必要となる身近な素材（自身の研究領域を含む）は各自で収集を行う。
- ・受講に際して実習材料費を徴収します。※内訳は実習期間中に連絡し残額は返金します。

#### ■成績評価の方法・基準

□方法 成果作品（フォトグラム作品、様々な絵画技法による作品ファイル、課題作品）60%、平常点（制作の取り組み）40%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

#### ■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト 授業内にプリント「写真技法（フォトグラム）」、「様々な絵画技法」を配布する。
- 参考文献 『アートスクールシリーズ ミクストメディア 用語と基礎知識』著者 マイカル・ライト (Michael Wright), 訳者 石関一夫, 美術出版社, 1995年
- 参考資料：学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25103	彫刻(工)	2単位 前期	1	演習	砂川 泰彦

■テーマ 彫刻の量塊と構造「石の種」

■授業の概要

「種」をテーマに、塑造技法(modeling)によるエスキース制作を行い、琉球石灰岩を素材に石彫技法(carving)によって作品へと発展させる。作品制作、彫刻作品鑑賞を通して、基礎的かつ一般的包括的な彫刻表現の概要を学び、“触覚的”な対象の捉え方、表現方法を理解する。

■到達目標

- ・ 彫刻における量塊と構造を理解する。
- ・ 彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
- ・ 彫刻におけるモデリング(modeling)とカービング(carving)の特性を理解する。

■授業計画・方法

1. ガイダンス、構想：想像や心情を基にアイディアスケッチを描き独創的な構想を練る。
2. エスキース粘土制作：粘土素材の可塑性から生まれる形の美しさを感じ取る。
3. エスキースの石膏取り：石膏の特性と扱い方を理解する。
4. 鑿づくり：石鑿づくりをとおして日本の鍛冶技法を体験する。鞆の構造、扱い方を学ぶ。
5. 鑿づくり：石鑿の成形から焼き入れなどの一連の鍛冶技法を体験する。
6. 粗彫り：石膏エスキースを石に描く。電動ドリルなどの正しい使い方を理解する。
7. 粗彫り：コヤスケや鑿で石を彫る手法を理解、習得する。道具の正しい使い方を理解する。
8. 粗彫り：鑿で石を彫る手法を理解、習得する。作品の構想の確認。
9. 粗彫り：彫刻作品における全体と部分の関係を意識する。
10. スライド及び参考作品鑑賞：日本、アジア、西洋の彫刻及び琉球王国時代の石造物、彫刻作品の鑑賞
11. 仕上げ：ビシャン、刃トンボの扱い方を学ぶ。彫刻作品における全体と部分の関係を理解する。
12. 仕上げ：ビシャン、刃トンボを使い完成を目指す。彫刻表現におけるカービングの特性を理解する。
13. 磨き：砥石によって研磨され、変化する素材（琉球石灰岩）の美しさを確認し、完成度を高める。
14. 磨き・仕上げ：作品を深く見つめ、完成度を高める。
15. 講評、自己評価とディスカッション、作品記録、後片付け  
定期試験は実施しない。

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

危険防止のため作業に適した服装で臨むこと。（事前に適宜指示する。）

■成績評価の方法・基準

- 方法 平常点（制作への取組）40%、成果作品（石膏像）60%による総合評価
- 基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。  
作品の完成度、独創性は評価する。

■教科書・参考文献（資料）等

- テキスト プリント「石膏取り」
- 参考文献 A. Coliva “Bernini Scultore. La Tecnica Esecutiva” De Luca Editori d'Arte、吉村作治(監修)『カイロ博物館 古代エジプトの秘宝』(株)ニュートンプレス、『世界美術大全集』小学館
- 参考資料 本学芸術資料館所蔵作品、学生参考作品

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
25104	デザイン (工)	2単位 前期	1	演習	渡名喜はるみ 當眞 茂 仲本 賢 赤嶺 雅

■テーマ 工芸表現を活用してデザインの基礎を学ぶ。

### ■授業の概要

工芸表現を活用してデザインの基礎を総合的かつ包括的に学習する。様々な撮影方法と表現方法を学び、さらにパーソナルコンピュータを使用して、主にAdobe Photoshop と同社Illustrator の両画像編集ソフトの学習をしながら、モチーフの観察・制作 (インプット) から、紙媒体や映像メディアへの出力 (アウトプット) までを、一貫して学習する。工芸専攻の学生として作成した作品を撮影、入力、編集、出力を通して、デザインの過程を学習する。

### ■到達目標

- ・デザインの役割や平面構成、色彩構成としての基礎を理解することができる。
- ・映像機器 (写真機、動画撮影機器) を使用して基本的な視覚デザイン表現ができる。
- ・コンピュータを使用し、印刷などの紙媒体の視覚伝達表現を実践的に活用することができる。

### ■授業計画・方法

1. 授業ガイダンス。デザインの社会的役割
2. 平面構成 (面と線、構図と空間の構成力) を学び、色彩構成 (配色や効果について表現力) を学ぶ。(担当: 赤嶺)
3. 映像機器の構造、照明及び周辺機器。(担当: 仲本)
4. スタジオ撮影1。立体的な物体の効果的撮影方法。(担当: 仲本)
5. スタジオ撮影2。自己作品の個別撮影方法研究。(担当: 仲本)
6. デジタル写真現像。RAW データの現像処理。(担当: 仲本)
7. デジタル写真現像。写真の修正 (合成、変形)。(担当: 仲本)
8. コンピュータ機器とOS 解説。基本機能、基本用語について。(担当: 赤嶺)
9. Illustrator 基本操作1。印刷サイズについて。図形及び文字打ちなどの操作。(担当: 赤嶺)
10. Illustrator 基本操作2。ツール及び配色や効果、各種パレットの操作。(担当: 赤嶺)
11. Photoshop 基本操作1。画像の取り込み、画像解像度、画像補正の解説及び操作。(担当: 赤嶺)
12. Photoshop 基本操作2。画像加工について、各種パレットの解説及び操作。(担当: 赤嶺)
13. ソフト併用操作。レイアウトの設定、画像配置の基本操作。(担当: 赤嶺)
14. 出力機器の操作及び課題制作のアウトプット。(担当: 赤嶺)
15. 講評及びデザインの役割についてディスカッション。

定期試験は実施しない。

### ■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

- ・準備: デザイン基礎である平面構成、色彩構成の作品鑑賞や写真、コンピュータを理解する。
- ・復習: 授業の中で行った講義及び実技はその日のうちに整理、復習を行う。
- ・展開: 学んだ授業を実践的に作品へと展開し、具体的成果へと結びつける。

### ■成績評価の方法・基準

□方法 平常点(制作への取組)40%、成果物(プリント作品)60%による総合評価

□基準 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

### ■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 配布するプリント

□テキスト 特になし

□参考文献 『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの平面構成』朝倉直巳著 (六耀社)、『基礎造形シリーズ 芸術・デザインの色彩構成』朝倉直巳著 (六耀社) 等々